



# 高知らしさで 溢れかえる



集まる、交わる、繋がる  
高知街ラ・ラ・ラ音楽祭が紡ぐ  
高知らしい音楽の輪！

Contents

連載						特集					
読者プレゼント	集落を訪ねて	ブライムトーク	金曜日のTOSAレシビ	土佐が語り継ぐ祭	絶景にて人と出会う	高知らしさで溢れかえる	音楽の輪	ラ・ラ・ラ音楽祭が紡いだ音楽の輪	地域を超えて繋がる音楽の輪	ジャンルレスに集う音楽の輪	世代を超えて交わる音楽の輪
P23	P22	P20	P18	P16	P14	P10	P08	P06	P04	P03	

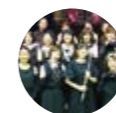
## とさぶし31号の登場人物



龍笛奏者の柿谷貞洋さん



「本山町議会事務局」の泉祐司さん



「Mint Green Breath」の皆さん



「高知街ラ・ラ・ラ音楽祭」の実行委員長を務める門脇隆彦さん



中津川集落活動センター「こだま」の田辺客子さん



「一條神社」の宮司を務める川村公彦さん



「Hot Line」の皆さん



「THE NATURAL KILLERS」の千代谷正貴さん



レストラン「陶美庵」のトービアン・カンブ・アンダーセンさん



「山荘 梶ヶ森」の松下美希さん



「IGORIN's BB」のリーダーを務める井郷智史さん



自分が一番面白いって  
思ってるんじゃないかな。  
ラ・ラ・ラ音楽祭は次世代に  
しっかり繋げたいお祭りです!

高知街ラ・ラ・ラ音楽祭実行委員長  
**門脇 隆彦さん**

第2回目よりミュージシャンとして参加。  
第8回より実行委員長を務める。3人組  
バンド「★★★(ホシミツ)」のベースを  
担当。参加人数で星の数が変わるとか。



### フィナーレはラ・ラ・ラオールスターズ♪

祭りのフィナーレを飾るのは実行委員バンド「ラ・ラ・ラオールスターズ」、そして  
ゲストのライブ。この頃には参加者、視聴者ともにテンションMAX!

## オーディエンスは街の人全員

音楽関係者が集結し裏方を担当  
音響からライブハウス陣まで、高知の音  
楽関係者が手分けして各会場を担当。  
パンフレットには、会場ごとの担当業者の  
紹介も行うなど音楽祭を通じて縁を繋ぐ。



### 帯パラは「飛び入り会場」

「みんなの音楽を聞いて演奏したくなっ  
た」、そんな要望に応じて「飛び入り会  
場」まで設置されている。誰でもウェル  
カムこんなノリも高知らしい!



### 「土佐のおきやく」で春ラ・ラ・ラ♪

「土佐のおきやく」では、中央公園で  
2DAY、帯屋町公園で1DAYを担当。今  
年は「土佐のおきやく」自体が中止とな  
ったが「星空ディスコ」が予定されていた。



### 岡崎市長も熱唱!

中央公園の特設ステージでは、「ラ・ラ・ラオー  
ルスターズ」の演奏をバックに岡崎市長も歌声を  
披露。万人に馴染みのあるJ-POPで会場を盛り  
上げる!



### 高校の軽音楽部も参加!

6年前より高校の「軽音祭」とタイアップし、毎年  
7組の高校生バンドが登場。学生ライブはもち  
ろん、「先生が歌い学生が踊る」場面も。



# ラ・ラ・ラ音楽祭 音楽の輪 が紡いだ

ONGAKU no WA

### 街全体が1日中音楽で溢れる

大橋通り商店街、オーテピア、藤並公園、追手  
門前、丸ノ内緑地、はりまや橋商店街、壱番街商  
店街、京町・新京橋商店街、中央公園、帯屋町  
公園、帯バラ飛び入り会場と全11ステージ。



### 青空の下、芝生の緑をステージに

丸ノ内緑地をはじめ、藤並公園など、緑溢れる街  
の公園や広場も特設ステージに。肌に触れる秋  
の風が、まるで音楽とハーモニーを奏でよう。



### 実行委員・ボランティアが一丸となって盛り上げる祭り

春に準備が始まり秋に本番。テーマ設定から運営費の捻出、当日の運営まで、  
実行委員、音楽関係者、ボランティアが一丸となって祭りを支える。

### 高知らしさで溢れる アマチュア音楽の祭典!

ライブハウスで個々に活動して  
きたアマチュアミュージシャン  
らが、一年に一度だけ野外に繰り  
出し、集い、高知の街が音楽一色  
に包まれる。優しい秋の風が吹  
き抜ける9月第3週目の連休  
ど真ん中、高知街ラ・ラ・ラ音楽  
祭は開催される。中央公園や  
追手門前、はりまや橋商店街  
をはじめとする11のステージで  
総勢130組、550人以上  
ものミュージシャンが次々と音  
楽を披露。いくつものステージ  
を人がくるくる動いて、ミュージ  
シャンのライブをハシゴする、こ  
れぞ高知の自由さが現れたア  
マチュア音楽の祭典。第8回か  
ら実行委員長を務める門脇隆  
彦さんは「これはイベントじゃな  
い祭りや」と声をはる。そう、  
ラ・ラ・ラ音楽祭の開放感はや  
さこい祭りに似ている。音楽が  
突き抜ける青空と、音楽がこ  
だます商店街の下、ミュージ  
シャンとオーディエンスが一体と  
なる至近距離。参加者は小学  
生からシニアまで老若男女で、  
奏でる音楽は日本の伝統音楽  
からワールドミュージック、演歌  
にロックと色とりどり。そして、  
夕暮れどき、各会場でライブを  
終えた全てのミュージシャンが  
中央公園に集結し、一丸と  
なってフィナーレを盛り上げる。

その頃には、ビールを片手に音  
楽に酔いしれ踊り出す陽気な  
土佐人で溢れかえる。

### 開放感の渦に包まれ 音楽と人、人と人が繋がる

2002年より18年の歴史  
を紡いできたラ・ラ・ラ音楽祭に  
は、色んなドラマがある。年を追  
うごとに演奏の場が減るミュージ  
シャンにとっては、いくつになっ  
ても現役でステージに立てるチャ  
ンス。しかもそれが青春時代の  
記憶を呼び覚ますストリート  
ときたら、その爽快感はないだ  
ろう。一方で、県外から参加する  
ミュージシャンの追っかけて来  
高した若者が、高知の自由さや  
面白さに感動してファンになる  
ケースも多い。新しい音楽との出  
会い、ミュージシャン同士の繋が  
り、関係者同士の絆。「青空の下  
は開放感たっぷり」で、出演者  
同士はもちろん、出演者と観客  
の距離が近いからすぐに繋が  
る。音楽関係者同士のネットワー  
クも広がって仲間が増える。ラ・  
ラ音楽祭は人と人との距離  
感を縮めてくれる」と門脇さん  
はその魅力を語ってくれた。今年  
19回目を迎えるはずだったラ・  
ラ音楽祭は、新型コロナウイルス  
感染症の影響を受け中止を余  
儀なくされた。しかし、きつとまた  
来年、高知の街に溢れんばかりの  
音楽を届けてくれることだろう。



# 地域を 超えて 繋がる



## イギリス ブレインピスト IGORIN's BB

**profile**  
結成2年目のロックバンド。オリジナル曲は10曲ほどあり、すべてリーダーの井郷智史さん(写真左から2番目)が作詞作曲を担当。その音楽性、個性豊かなステージ衣装でも高知の音楽ファンを魅了し、普段は「グラッシー」「パラダイム」などでライブを行っている。



## 関西から毎年「ラ・ラ・ラ音楽祭」に出演 音楽が繋げた地元ミュージシャンとの絆

## ザ ナチュラル キラーズ THE NATURAL KILLERS

**profile**  
25歳から音楽をはじめ、バンド活動など動を経て、29歳で「ザ ナチュラルキラーズ」として1人で活動をスタートした千代谷正貴さん。音源はバンドをイメージし、全工程を1人で制作。ライブはギター弾き語りというスタイルで、感情と世界観を自由に表現している。

### ラララ音楽祭を通して 高知が第一の故郷に

ラララ音楽祭に魅せられて、県外から足を運ぶミュージシャンは少なくない。その中の一人が兵庫県で活躍する「ザ ナチュラルキラーズ」の千代谷正貴さん。遡ること今から約10年前。兵庫県西宮市でライブをした時、たまたま居合わせた高知のお客さんを通じてラララ音楽祭の存在を知り、2011年に初出演して以来、毎年参加する常連だ。「神戸新開地音楽祭や、大阪の天満音楽祭など、全国の野外音楽祭はこれまでたくさん出演してきましたが、ラララ音楽祭はそれらとは一線を画すものがあります。街中にステージがあり、空気に温かさ、マインドオープンな県民性……高知の良さが溢れている、とても魅力的な音楽祭だと思っています」。実は千代谷さん、ラララ音楽祭の出演を機に高知がすっかり気に入って、時には一人で、時には高知のミュージシャン達と一緒に、これまで何度も高知でライブを行っている。「ラララ音楽祭に合わせてその前後に色々ライブして回ってるんです。気が付けば、地元兵庫以外で高知が一番長く来続けている土地になりました」。そんな中で

出会ったのが、高知で活動するバンド「イギリスブレインピスト」だ。双方の出会いは2013年頃のこと。一人で高知に歌いに来っていた千代谷さんが「高知フォーク酒場グラッシー」でライブをする際、マスターが前座に呼んだのが「イギリスブレインピスト」のリーダー・井郷智史さんだった。「その日の夕方電話がかかってきて、今夜ライブがあるから前座をして欲しいと。そこで千代谷さんと初めて出会いました。すごく良かった、とても印象に残っています。それをきっかけに連絡を取り合うようになった2人は、定期的に高知で合同ライブを行い親睦を深めていく。

### 日本のどこにしようとも 音楽を通して繋がる

元々東京出身の井郷さんは18歳で音楽を始め、結婚し、奥さんの故郷である高知に今から18年前に移住。現在はソロと、結成して2年目のバンド「イギリスブレインピスト」の二足のわらじで音楽活動が続けている。「ラララ音楽祭はお客さんとして見に行っていたんですが、せっかくバンドを組んだのだから出てみよう、初めて出演したのが昨年でした。やっぱり見ると演る

とは全く違って、演者の方が断然楽しかったですね」。自分のステージが終われば仲間が出るスんなジャンルの音楽に触れられるのが何よりの魅力と語る。千代谷くんのステージも見に行きましたよ。毎年ラララ音楽祭に参加し、それ以外にもたくさん高知に足を運んでもらって嬉しいですね」。ちなみに普段はお互い密に連絡を取り合ったりはしないのだとか。井郷さんは「千代谷くんのFace bookを見たらだいたい何をしているか分かりますから」と。千代谷さんは「高知の人は距離感をとるのが上手だと思います。それでいて義理堅く、温かい。それが僕にとって心地いいんです」と。そんな双方の絶妙な関係性もラララ音楽祭が生み出した魅力のひとつだ。



南米アンデス音楽 South american andean music



南十字星

民族楽器のパワー溢れる個性派バンド

アンデス地方に伝わる伝承曲や祭り曲を中心に演奏。様々な民族楽器を使って奏でる音色と、高揚感高まる独特のリズムがこのバンドの持ち味。演奏するだけでなく、民族楽器の製作講座も時々開催している。

J-ポップ J-pop

Stellight Caster

心を掴むオリジナルソングが魅力

2019年11月に結成し、急激に人気を集めているバンド。高知大学軽音楽部のメンバーを中心とした4人で構成され、人の心を掴む王道ソングやロックなどを作曲・演奏。FM高知の番組エンディングテーマにも採用されている。



昭和歌謡曲 Japanese Oldies Songs



ザ・サウス

懐かしのあの曲を月1で生演奏!

ギター、ベース、ドラム、キーボード、サクソフーン、ボーカルの6人構成で演奏。女性ボーカルがメインで昭和歌謡を熱唱し、オーディエンスを盛り上げる。毎月第1土曜日は、ライブハウス「パラダイム」にて生演奏を行っている。

演歌、昭和歌謡曲 enka, Japanese Oldies Songs

南十字星

結成75年の歴史ある  
実力派バンド

懐かしの演歌や昭和歌謡曲を中心に、ジャズやJポップまで幅広く演奏。ライブごとに歌手を募集し、様々な人が生バンドをバックに歌えるのが「南十字星」流。完成度の高い演奏が特徴で、曲のレパートリーも豊富。



アコースティック Acoustic

くぼしゅん

人の感情を揺さぶる歌とギター

ギター1つでポップなカバーソングや、ちょっぴり切ないオリジナルソングなどを演奏。奏でる曲によって、聴く人の様々な感情を引き出すライブが「くぼしゅん」らしさ。ライブ中の観客とのトークも大切にしている。



民謡 Folk song

ぺんぺん小町

三味線と民謡が織りなす和の音色

三味線と民謡の奥深さに魅せられ、2010年頃に結成した2人組ユニット。民衆の中から生まれ、口伝で受け継がれてきた郷土色豊かな歌詞を今に伝えるため、弾き歌いスタイルで活動。アレンジ曲や三味線のみの曲も演奏している。



沖縄音楽 Okinawan folk songs

沖縄三線で奏でる  
沖縄愛に溢れた音楽

ゆんたく  
ネーネズ

三線や太鼓を使って奏でるのは、古くから歌い継がれる沖縄民謡や沖縄ポップス。歌だけでなく踊りも盛り込まれたライブは、「みんなが主役」を合言葉に、見る人も一緒に盛って盛り上げられる音楽を届けている。



ジャンルレス  
に集う

音楽の輪  
ONGAKU no WA

日常では縁のない新しい音楽との出会い  
音楽祭に集結する総勢130組以上の参加者は、年代・性別・ジャンルともに千差万別。結成75年の歴史あるバンドから、1年未満の若手バンドまで、幅広い世代が集まっている。歌って、踊って、楽器の自作もする個性派揃いながらも、それぞれが聴く人の心を掴む音楽を演奏し、ジャンルを超えて人々に音楽の魅力を伝えていく。

何でもOKなのが高知っぽい

【普段の大会とはまるで違う刺激的なステージ】

「この10年で県内の軽音楽を取り巻く状況は随分と変わりました」。そう語るのは、高知で軽音楽を広めた第一人者と言つても過言ではない、窪川高校軽音楽部の顧問・横田直祐教諭。2011年に横田教諭自ら「軽音楽連盟」を立ち上げ、2013年には「高知県高等学校文化連盟」に正式加入が認められ、大会などが定期的に開催されるように。それを機に県内で軽音楽部が徐々に増えはじめ、現在は高校は27校、中学校は3校、総部員数約750人にまで増え、盛り上がりを見せている。そんな県内の軽音楽部が一堂に集まり、ひとつの目標にもなっているのが「軽音楽」。

【ラ・ラ音楽祭】

もしくはラ・ラ音楽祭の実行委員会から推薦があったバンドが、そのステージに立つことができる。「出演した生徒達はいつもと違うステージ、環境、新しい出会いの中、たくさん刺激をもらっています。特に野外や街中で演奏できることはなかなかないので皆本当に楽しみにしています」。今年高知で開催予定だった総文祭など、軽音楽の全国的な大会はいくつかある。そんな中でもラ・ラ音楽祭の



ステージは、普段は同じ高校生同士で切磋琢磨している彼らにとつて、県内の音楽愛好家や地域の方、そしてプロの方などと共演できる貴重な機会になっているのだ。

【軽音楽部の祭典「軽音楽」とは】

県内高校軽音楽部が集い、皆がひとつの目標に掲げる県内最大の軽音楽イベント！2011年に始まり、これまで18回行われてきた「軽音楽」。高知の高校軽音楽部が一堂に会する県内最大の軽音楽イベントで、現在は7月に「夏の陣」、12月に「冬の陣」の年2回開催。県内高校軽音楽部所属のバンドやボーカル、ギタリストなどが36組が参加し、上位入賞すると全国大会への切符を手にする事ができ、過去には「軽音楽」で最優秀賞を受賞したバンドが全国大会でグランプリを獲得するなど活躍。高知県の軽音楽シーンのレベルの高さを見せつけた。

世代を超えて交わる



高校生 High school students



軽音楽の歴史

- 2011年 軽音楽連盟設立 「第1回軽音楽祭」開催
- 2013年 高知県高等学校文化連盟 軽音楽専門部設立
- 2017年 「SAKURA17音楽祭全国夏大会」で 高知中央高の「OREO」がグランプリ受賞
- 2018年 高知県内の軽音楽部に所属する高校生バンドの曲を集めたCDを発売 「とよさと軽音楽甲子園2018」で、土佐高の「ド根性ガールwithB」が最優秀賞（文部科学大臣賞）獲得 「2018信州総文祭」で高知高の「Laze of Lazy」が優良賞



- 2019年 「こうち総文祭ブレ大会」で窪川高の「愛ヲ菓子」が特別賞
- 2020年 「こうち総文」軽音楽部門をオンラインにて開催



RIP DISHONOR

2018年11月結成。井関君、下田君、矢野川君、清水さんの4人組で、今夏オリジナル4曲入りCDを発売。ライブ活動も積極的に行っており、「いつか憧れの舞台であるラ・ラ音楽祭にも出演したい!」と意気込む。



【「自分達の音楽」を届けるべく日々精進!】

土佐塾中学・高校在校生による邦ロックバンド。4人中3人が中学3年生とは思えない卓越された演奏技術を持ち、「次世代の高知音楽シーン」を引っ張っていく存在」と注目を集める。曲もオリジナルを中心に演奏しており、「日々感じたこと

や伝えたいことを歌詞に込めている」という。曲調もいわゆるポップロックにとどまらず、ハードロック調のものやロックテイストとは違ったものまで幅広く、ライブも積極的にしながら「皆さんに自分たちの音楽を届けた」と頑張っている。

【5人の力を合わせて今しかできない音楽を】

「今、県内でコンテストがあったら優勝候補筆頭!」と、顧問の横田先生も太鼓判を押す、窪川高校軽音楽部所属のロックバンド。高校生バンドには珍しい5人編成で、ギター2人をコード弾きと1本弾きに分けて音の幅を広げたり、ボーカルが独



カミヒトエ

2018年4月結成。全員が窪川高校軽音楽部所属の3年生。「yonige」などのコピーのほか2曲のオリジナル曲も持つ。メンバーは右から、こゆきさん、ゆめさん、かほさん、みゆさん、しほさん。





世代を超えて交わる

# 大学生・社会人 College student・Member of society

## ボランティアに支えられて18年。 バトンは社会人から学生へ

ラ・ラ・ラ音楽祭を支えるのは総勢約80人。大学生から社会人まで多くの人の協力で成り立っている。出演者募集から審査、資金集め、会場設営、そして当日11会場の司会進行や物販まで、裏方の仕事は盛りだくさんで、そこには次世代を担う大学生の姿も。高知大学、高知工科大学の音楽クラブではこの音楽祭の運営に参加することが、いつの頃からか年間スケジュールにも組み込まれている。それぞれの学校に1カ所の会場を任せ、運営会議から参加。「学園祭をイメージしてやっ

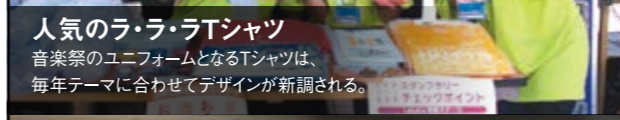
てみて」、そんな実行委員長からの号令のもと、ステージ作りから司会進行、会場の片付けまでを担当。春の音楽祭では両校一緒に1会場を任せられるなど、そこには他校と繋がり大人と繋がる、学業では学べない貴重な教えが山積みだ。「ラ・ラ・ラ音楽祭という大きなイベントで得た経験は、普段のライブとは違う達成感があった。街全体が一体になって音楽を楽しめる場所がラ・ラ・ラ音楽祭の魅力」と学生陣。きっと彼らが架け橋となって未来へのバトンを繋いでくれることだろう。



MCもボランティアが担当!  
中央公園の特設ステージの司会進行役もボランティア。音楽祭の魅力にハマる熟年ボランティア続出!



人気のラ・ラ・ラTシャツ  
音楽祭のユニフォームとなるTシャツは、毎年テーマに合わせてデザインが新調される。



バンドミーティングを皮切りに  
バンドミーティングには、大学生ボランティアも参加。自分達の役割分担が実行委員長より告げられる。



運営資金も自分達で稼ぐ!  
1人2000円の参加費と協賛金、グッズ販売、募金など、必死の努力で運営費を賄っている。



各会場でボランティアが活躍  
各会場ごとに複数のボランティアを配置。会場が11カ所もある特性上、多くの人の協力が必要となる。



### 主婦 Housewife

## 歌を通じて皆に喜びや幸せを

### 歌う楽しさを皆で表現 する主婦コーラスグループ

「歌うことで自分自身を表現し、喜びや幸せをみんなで感じたい。伝えたい」そんな思いで集まったボイス&コーラスグループ。メンバーは香美市を中心に、高知市や南国市、香南市在住の30〜60代の女性で、子育て中の主婦やフルタイム、パートとして働きながら活動をしている。「香美市でゴスペルなど、英語の歌を歌いたいと友人や知人を誘って結成しました。Jazzの経験があるピアニストも在籍しており、以前指導頂いたこと

のあった山本幸雄先生に指揮や練習の指導を受けながら、みんなで歌を楽しんでいます」と代表・西岡さん。イベントにも積極的に参加しており、その一環としてラ・ラ・ラ音楽祭にも2014年より毎年参加。「ラ・ラ・ラ音楽祭に出演させていたいただいた事で、素晴らしいアーティストの皆様とお客様と時間の共有ができ、良い経験になっています。それによって大きく活動範囲が広がりました。今後はメンバーを増やし、より層の厚いコーラスを観客に届けたいと奮闘。

### Mint Green Breath

2010年2月結成し、主婦21名と、男性2名が在籍。ゴスペルを中心にポップス、Jazz、ボサノバや映画・ミュージカル曲など。



### シニア Senior

## 今もなお燃え続けるロック魂!

### 長い年月を経て復活を 果たしたロックバンド

7名在籍するメンバーのうち、ほとんどが60代後半〜前任者にドクターストップがかかって交代した」という現在のドラマが少し若くて50代、そんなベテラン揃いのロックバンド。ラ・ラ音楽祭には2015年より毎年春と秋の両方に出演し続けており、「我々の演奏を聴いてもらえるのはもちろん、知らないバンドや若者バンドの演奏を見て刺激ももらっている」と言う。1975年頃に結成し、5年程の活動を経て一旦

解散。「自然消滅したんです。それが35年以上後にふとバンドの同窓会をすることになって。その時に誰彼ともなく『もう一度バンドやるか』と。どうせすぐダメになるなと思っただんですが、スタジオに入ってみると思いのほか皆本気だった。そこから定期的に練習を重ね、今なお、音楽への情熱を燃やし続けている。「かつて紅顔の美少年だった我々も高齢者と呼ばれる年になりました。でも、バンド仲間との演奏のお陰でロック精神を胸に生きている張りが得ています!」。

### HotLine

高知大学のフォークシンガー・小村イサオのバックバンドを前身に結成。ラ・ラ音楽祭や軽音楽祭にて毎年演奏を披露。



絶景にて  
人と出会う

Spot  
09

四国では数少ない独立峰

# 梶ヶ森

梶ヶ森は、標高約1400m。長岡郡大豊町の最高峰で二等三角点の山。剣山山系の西端に位置する独立峰で、山頂からは四国山脈を一望することができる。山頂までは、吉野川沿いから豊永の山道に入り、山頂まで徒歩で4〜5時間、車で30分程の道のりだ。いきいきと生い茂る樹木に囲まれた登山道は、きらめく陽光が所々差し、野鳥のさえずりが清々しい。標高が高くなるにつれて、空気の透明度が変わりゆくのを感じながら、8合目にある「山荘 梶ヶ森」をとりあえず目指す。山荘の広場に到着し周りを見渡すと、山頂以外に目線の高さを遮るものはない。青くて広い空がいつもより近く、空気は限りなくピュアだ。

そこで出迎えてくれたのは、同施設の運営に携わる松下さん。「ちよつとお洒落な山小屋」をコンセプトに、2017年にリニューアルオープンした「山荘 梶ヶ森」のスタッフとして、登山、ハイキング、キャンプ、星空・雲海観

## 一刻一刻、時間の流れとともに表情が変化する えもいわれぬ絶景を届けてくれる神が宿る山

賞など山遊びをエスコートしてくれる。山の特徴や自生する植物、動物について詳しく書かれたガイドマップの制作に携わるなど、この山の魅力を知るエキスパートの一人。

「夕日が沈む時間帯が私の一番のお気に入り。山際に太陽が隠れても残光が消えずに残り、南の空が赤からオレンジ色に染まる。条件のいい日は、しばらくするとえもいわれぬブルーになって本当に綺麗なんです。夜空の星も圧巻で、山荘の駐車場に寝っ転がると視界一面に星空が広がる。流れ星もよく流れます。また、野生動物を間近で見られるなど、ここにいるだけで自然を全身で感じ、リラックスした時間を過ごすことができます」とその魅力を語れば、尽きることはない。

ここは地球のスケールの大きさを肌で感じる、そんな場所。人の存在のちっぽけさを良い意味で見つめ直せる心地よい風景に出会える山だ。

秋から春の早朝、吉野川にかかる雲海の絶景もおおすすめです!



山荘 梶ヶ森 スタッフ  
松下美希さん

大豊町の「山荘 梶ヶ森」の指定管理者である「株式会社 相愛」に勤務し、「山荘 梶ヶ森」の運営の他、ヒルクライム大会や子ども向け昆虫採集教室など梶ヶ森の立地を活かした様々なイベントの企画・開催にも携わっている。

信仰の山・鎮守の山としての歴史も深い梶ヶ森。弘法大師がおこもりをした定福寺の奥ノ院護摩堂や御影堂、龍王の滝、真名井の滝など名所・史跡も多数存在する。県立自然公園に指定されており、景色だけではなく、珍しい植物や四国固有種の動物など、自然のままの生態系を目の当たりにすることができる美しい山である。



# 一條神社に70年伝わる相撲大会 全日本女郎ぐも 相撲大会

●一條神社(四万十市中村本町1-3)  
●2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止  
中村地区の中心地にある一條神社は、下向した一條教房公が御所を構えた場所。土佐一條氏歴代の霊が祀られている由緒ある神社で、夏休み親子で楽しむ祭りとして「全日本女郎ぐも相撲大会」は定着している。



嶺北の夏を盛り上げる奉納相撲

# 上関 阿弥陀堂奉納相撲

●本山町上関  
●2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止

本山町指定の無形民俗文化財として登録され、現在では県外や外国の参加者が集まる奉納相撲。相撲の常識を逸脱したユニークなルールや、会場内に剥き出して吊り下げられたお札(賞金)が印象的。



# 土佐

# が語り継ぐ

古き良き伝統文化を後世に伝えるべく奔走する祭り人達の想いを胸の内にせまる!

町に賑わいと活力を



地域の繁栄を願って  
力一杯ぶつかる

「上関 阿弥陀堂奉納相撲」の起源は、江戸時代・万延の年頃(1860年代)。上関に疫病が流行して凶作に見舞われ、病氣回復と豊作を祈願するための神事として始まった。住民らが草相撲の横綱力士に依頼し、上関の竜神社(現在の阿弥陀堂)で土俵入りを行ったことがきっかけとなり、約160年、山間部の小さな町の一大行事として、地元民に愛され育まれてきた。

一條のお殿様が開催した  
雅な宮中遊び

中村の中心商店街のすぐ側にある一條神社では、毎年8月初旬、「全日本女郎ぐも大会」が開催される。小学生までの男の子と女の子が、「見恐ろしい姿をした女郎ぐもを怖がりもせず操る姿が印象的だ。この大会の起源は、戦国時代に遡る。応仁の乱を避けて中村に下向した一條氏が宮中遊びを懐かしみ、女官達を喜ばせるためにも同士を戦わせたのが始まりで、それがいつしかわんぱく小僧たちの間で広がり、昭和25年から現在の大会へと発展した。

子ども達の思いを託した  
女郎ぐもの熱い戦い

子ども達はこの日のために一生懸命育てた選りすぐりの一匹を枝

平成24年には本山町指定の無形民俗文化財として登録され、現在では嶺北地域をはじめ、県内外からも参加者が集まる大祭へと成長。そのルールがとてもユニークで見物客を大いに沸かせている。奉納相撲のルールはこうだ。総当たり戦を行い、実力が拮抗すると思われる力士を選び、「お好み三番勝負」という対戦を3回させ、「甲」「乙」「丙」のチーム分けをする。別れたところで、各々のチームで取り組み優勝者を決める。面白いのは、その後、優勝者以外の力士で行う「飛びつき5人抜き」で、立て続けに5人抜きで勝利を目指す。1人倒すと間髪入れずに次の力士が飛びかかってくるという迫力満点の勝負。このユニークなルールにより肉體自慢の力士が脱落し「番狂わせ」が起こることもしばしば。勝者には会場に剥き出して吊り下げられたお札賞金が進呈されるといって斬新な展開で、見物客の歓声と共に会場は熱気に包まれる。



にくっつけて大会に集まってくる。枝の先にぶら下がっているのは、多量の糸を勢いよく出す胴体部2cm程の女郎ぐも(正式には「ガネグモ」と呼ばれている)。土俵となるのは40cm程の細い棒の上。くもの縄張り本能を利用して戦わせ、落ちたり逃げたり嘔まれたりすると負けとなる。落ちまいとぶら下がった糸を棒の上のもう一匹が切つて落とす「やぐら落とし」や、相手の体を噛む「がっぷり」など4つの決まり手がある。行司の軍配によって勝敗が決まる。対戦するのは全長わずか2cmの真黒いぐもとあって、その見極めがなかなか難しく、大会関係者らは、対戦の一挙手一投足を固唾を呑んで見守る。一生懸命育て上げてきた自分の分身であ

毎年、暑中見舞いを出す頃、実行委員会の呼びかけを皮切りに祭りの準備が始まり、地区の住民や市街地の事業者らが手を取り合い町が活気付く。現在では、「可愛らしい」「子ども相撲」や「おんな相撲」も行われるようになり、地域の老若男女が一丸となって祭りを盛り上げている。当日参加もOKとあって、昨年は外国人参加者の姿も。この祭りの実行委員を務める本山町議会議務局の泉さんは、「伝統ある行事ですが、外からの風も取り入れながら、皆に愛される楽しい祭りとなるよう、頑張っていますので、ぜひ見に来て欲しいです。飛び入り参加大歓迎! まわりも用意していますよ!」と、祭りへの想いを語ってくれた。



本山町議会議務局  
泉祐司さん

る女郎ぐもを見つめる子ども達の真剣な眼差しからは、幼い子どもながらも熱い気迫が伝わってくる。

近年は、観光客にも気軽に参加をしてもらおうと、四万十市観光協会が女郎ぐもを用意して「観光の部」も設けられた。大会自体の規模は大きいわけではないものの、子ども達が大切に育てたくもに注ぐ思いと、由緒ある一條神社で行われる遙か昔の宮中遊びの風流さが魅力となつて70年も続き、現在ではすっかり無くてはならない恒例行事に。「迫力ある女郎ぐもの戦いと子ども達の輝く瞳の純真さが魅力の祭りです」と一條神社の川村宮司はこの祭りの魅力を教えてくれた。



一條神社  
川村公彦宮司

LINE@でも  
情報配信中!



とさぶし  
と友達になろう!

① QRコードを読み込み「とさぶし」と友達になる



② 記事の閲覧やプレゼント応募、最新情報を受け取れる



以前は夜まで行われていた地元の人々に欠かせない金曜日

愛宕商店街の中頃を横切るJRの高架下で、毎週金曜日に行われている「金曜日」の歴史は1926年に遡る。当時の朝倉町で誕生した街路市がルートで、その後、1950年代に愛宕へ移転。そして市道が整備され、2009年、高架下の敷地に「愛宕町広場」が誕生したのをきっかけに、この広場で開催されるようになった。「今は1列だけになったけど、以前は2列になっていたからさんの店が連なって、時間も朝から夜の19時過ぎくらいまで行われていたんですよ」と古くから金曜日で出店を続ける方々は教えてくれた。その言葉通り現在は200m強の距離に15店舗ほどが軒を連ね小規模なものとなっている。しかし、お客さんとお店の方がやり取りを繰り返すその活気は他の街路市同様。近くの住宅街に住む地元の人々を始め、プロの料理人達もこぞ訪れている。



普段は青果店を営むだけに、数多くの果物を揃える杉本さん。夏場はマンゴーやスモモ、スイカなどが並ぶ。

色んな種類のフルーツマトをはじめ、文旦や小夏、完熟パイナップルなどの果実も揃う寺尾さんのお店。

うどんやそばなどの麺とダシのセットや天ぷら、すまぎに冷やしあめ、レモン水などを販売する一柳さん。

トピーアンさんを出店に誘ったという永野さん。2人とも重倉地域に住んでおり、永野さんはタケノコやフキなどを販売。

金曜日一番西側を出店を展開する和田さん。自家製のキャベツや夏野菜などを揃えている。



コリンキーをはじめ、珍しい野菜も揃える水田さん。その隣で出店する小山さんは弟さんと、同じく自分の畑で育てた野菜などを販売している。



愛宕商店街を横切るJRの高架下で行われている金曜日にて出店中のデンマーク人シェフに「スモークサーモンとほうれん草のタルト」のレシピを教わった。

週末にかけて準備をするプロ料理人御用達！珍しい野菜なども並ぶ

プロの料理人が多く訪れる理由のひとつに、「金曜日」に開催されている「ことが拳がる。忙しさを極める週末に備えて、食材を揃えておこうと料理人が訪れ、大量に食材を買うこともしばしば。また、旬の野菜や下ごしらえがなされた山菜などが数多く並び、さらには珍しい野菜を揃える水田さんなど、金曜日でしか出店しない人がいることも大きな理由になっている。中には今回のレシピを教わった、普段は自分のレストランで腕をふるうデンマーク人シェフのトピーアンさんなど、出店者もユニークな顔ぶれ。「昔は通称・誕生日のおっちゃんやエレガントのおじちゃんなど、名物出店者もたくさんいました。それだけ活気に溢れる市だ」という証明かもしれない「ね」と関係者。週末の食材の買い物に、お店の人とのやり取りを楽しみつつお買い物を楽しんでみるのもいいかもしれない。



金曜日一番東で出店する甲藤さん。チャーミングな笑顔が浮かべながら、トマトやナス、キュウリなどを販売。

シラスやアジ、サバ、カマスなど様々な干物を揃える松木さんのお店。普段は息子さんも店頭に立つ。

まんじゅうや粕漬けなどを販売する和田さんと、普段はまるみつ青果を営み、数多くの果物を揃える中山さん。

宮脇さんは自家製の切り干し大根の他、ナスやピーマンなど自分で育てた露地野菜を販売する。



普段は高知市久礼野でレストラン「陶美庵」を営むデンマーク出身のトピーアン・カン・アンダーセンさん。レシピを教えてくれたタルト以外にも、天然酵母のパンやキャロットケーキ、オートミールのキャロットクッキーなども販売している。

完成したのがコチラ！

## スモークサーモンとほうれん草のタルト

材 料			
ほうれん草	200g	ニンニクの茎	少々
燻製サーモン	160g	卵	4個
バター	100g	牛乳	200cc
小麦粉	160g	塩コショウ	少々
塩	少々	モッツアレラチーズ	100g
水	適量		

### 高知市 金曜日



愛宕商店街の西高架下で毎週金曜日に開催中。JRが地上線だった頃は南側の市道で行われていたが、JR線の高架化によって市道が整備され、それに伴い高架下で行われるように。約15店舗ほどが出店しており、日の出から日没1時間前頃まで開催されている。

会場 / 高知市愛宕町一丁目 JR線高架下 ☎ / 088-823-9456 (高知市産業政策課)



- 手順1** ある程度硬さを残したバターと小麦粉、塩を入れ、様子を見ながら少しずつ水を加えつつ、まとまるぐらいに混ぜ合わせる。
- 手順2** 蒸して2、3cmほどに切ったほうれん草と燻製のサーモン、ニンニクの茎をボウルで混ぜる。
- 手順3** 23cmのタルトの型にクッキングシートを敷いて伸ばした生地を乗せ、さらにクッキングシートをその上に置いてオープンに。200℃で10分ほど焼く。
- 手順4** 焼いた生地に具材と卵、牛乳、塩コショウを混ぜたものを乗せ、その上にチーズを並べて200℃のオープンで約35分ほど焼けば出来上がり。

# プライムトーク

土佐の文化を受け継ぐ者たち

高知の風土に育まれた「土佐人」たちは  
今日もそれぞれの分野から「土佐の風」を発信  
そこに新たな文化を重ねながら



龍笛奏者

かきたに

さだひろ

## 柿谷 貞洋さん

【プロフィール】  
1980年四万十市出身。高校から龍笛をはじめ、これまで中国、アメリカ、ロシア、インドなど世界各国で演奏。2016年より高知県在住の弦楽器、管楽器で構成されたバンド「fairy pitta」のメンバーとしても活動中。

、雅楽で使う管楽器のひとつ、龍笛。平安時代の貴族や武士に好まれた楽器で、清少納言や源義経、源博雅などがよく嗜んだと言われている。そんな歴史ある龍笛に魅せられ、伝統や格式を守りながら新たなスタイルで現代に伝承する、一人のアーティストにスポットを当てた。

### 直感した龍笛との出会い 今に続く日々のはじまり

四万十市で生まれ育った柿谷さんが音楽を始めたのは小学生の頃のこと。母の勧めでフルートを習い始め、中学生になると部活動とは別にフルートの練習時間を設けて腕を磨き、市の音楽祭では独奏を披露するまでに。しかし「とにかく緊張して、楽しいとか気持ちいいとか、そんな感情はありませんでした」と当時を振り返る。そして高校は奈良県の天理高校に進学し、ここで龍笛を知ることになった。「龍笛を目にした瞬間『これだ』と直感しました。フルートをずっと習っていたこともあったので、最初から割と音が出たのも大きかったですね」。そうして雅楽部に入り高校生活3年間で龍笛をみっちり学び、大学は天理大学に進学。もちろんこちらでも雅楽部に入り、そこでは月に5〜6回外部からの演奏依頼があるなど、忙しい日々を送った。そして初の海外公演を行ったのも大学時代だった。「初めて行ったのは中国で、その後ロシアにも行きました。ロシアの演奏会はかなり大規模なもので、よく印象に残っています」。まさに雅楽と龍笛漬けの学生生活7年間を経て、大学卒業後も雅楽の道を突き進んでいく。



FM高知で毎週全曜放送中の番組「プライムトーク」に出演した際のスタジオの様子。柿谷さんの出演は7月24日、31日の2回に渡ってオンエア。

### 龍笛と雅楽の素晴らしさを伝承 これからも続く芸術を極める道

日本に帰って来てからは、国内外で行われる演奏会に参加する他、自主公演もいくつか手がけた。2014年には平家物語を、2015年には陰陽師をテーマに、古典雅楽に洋楽や声楽などを織り交ぜた新しい舞台を披露し、多くの観客を魅了した。また2016年からは高知県在住の弦楽器、管楽器で構成されたバンド「fairy pitta」のメンバーとして活動するなど、まさに精力的だ。ちなみに雅楽のビッチは430ヘルツだが、洋楽のビッチは440ヘルツ。この10ヘルツの違いを補うために洋楽専用の龍笛をオーダーメイドで構え、演奏会に合わせて2本を使い分けるのだそう。また演奏家としての活動の他にも、四万十市で龍笛レッスンを行ったり、海外の方にはオンラインで教えたりもしており、時代に沿ったかたちで龍笛を、そして雅楽の素晴らしさを伝え続けている。「芸術というのは自分の心を表現するものであり、それ以上でもそれ以下でもありません。上手く吹きたいという気持ちは時に煩惱となり、その感情を超えたところに個性があり、それを出すために日々鍛錬を重ねています。終わりがいい世界でもとても難しいですが、そこが面白いんです」。

### 大きな転機となった アメリカに拠点を置いた2年間

大学卒業後に、奈良県の龍笛の先生の元に弟子入りした柿谷さんだったが、その時は思うように芽が出ず、苦しい時期が半年ほど続いた。その生活が苦しく、一度リタイアして故郷の四万十市に帰り、この時アメリカで活動することを決意する。その後2009年に渡米。現地では、ニューヨークのコロンビア大学雅楽コースでインストラクターを務めたりしながら演奏家としての活動も続け、2010年には初の創作曲「Five Elements」を発表。そして2011年には、ジャパン・ソサエティーでの東日本大震災復興のためのソロ演奏で、米紙NY Timesより「色彩豊かな、時に畏怖すら覚えるほどの烈々たる鋭気をまとう演奏」と高い評価を受ける。「NY Timesに取り上げられることはひとつの目標でもあったので、巡り巡ってきた縁に感謝したことでした」。この年の11月に日本に帰ることになるのだが、約2年間に渡ったアメリカでの活動は柿谷さんにとって今後を左右する大きなものとなった。「龍笛ひとつで現地に乗り込んでいくわけですから、洋楽とセッションすることも多々ありました。それまで日本の古典音楽の一つである雅楽を、他のジャンルの中に若干の抵抗がありました。アメリカにいたうちにそんな気持ちは完全に吹っ切れました」。



ニューヨークのラガーディアコミュニティカレッジへ通っていた時の授業風景。



2015年に行われた自主公演「陰陽再生物語」の様子。柿谷さんが監督・主演を務めた壮大なテーマのもと描かれた作品。



雅楽の道を極めるべく茶道も習っており、時には京都まで出向くことも。写真右は普段使っている2本の龍笛。



読者プレゼント

# とさぶしからの贈り物

クイズとアンケートに答えて応募してや!

**クイズ** 高知街ラ・ラ・ラ音楽祭の「飛び入り会場」はどこ?

たくさんのお待ちしています。

「とさぶし」からの贈り物

応募締切  
2020年9月20日

- 読者プレゼントの応募は、1人1回とさせていただきます。
- プレゼントの発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。
- いただきました個人情報はプレゼントの発送のみに使用します。

中津川集落活動センター「こだま」  
モーニングカフェ  
無料券 3組様

中津川集落活動センター「こだま」にて、毎月第1・3日曜日の8時半から開催予定の「モーニングカフェ」食事無料券。券1枚で3名まで参加できるので、ドライブがてら訪れて。



5



RIP DISHONOR  
CD「夜明け前に零れた青時雨」

2名様

中学生 & 高校生4人組バンド「RIP DISHONOR」のオリジナル4曲が収録された、今夏発売となるCDをプレゼント。曲を聴いて彼らのライブに参加もぜひ!

6



3

黄緑(サイズ/M)

1

紫(サイズ/XS)

4

黄色(サイズ/L)

2

グレー(サイズ/S)

高知街ラ・ラ・ラ音楽祭実行委員会

ラ・ラ・ラ音楽祭オリジナルTシャツ 各1名様

毎年、テーマに添ってデザインが新調されるラ・ラ・ラ音楽祭のオリジナルTシャツ。サイズ違いで4デザインをプレゼント。

とさぶしLINE@と友達になって、読者プレゼントに応募しよう!



- 1 スマホから左のQRコードを読み込んで、とさぶしLINE@と友達になる
- 2 とさぶしLINE@より「とさぶしからの贈り物」応募フォームが届く
- 3 応募フォームより、必要事項を明記し、読者プレゼントに応募する

※読者プレゼントの応募は「とさぶしLINE@」への登録もしくは、官製ハガキから応募できます。官製ハガキで応募される場合はお名前・発送先のご住所・電話番号・ご希望のプレゼント番号・クイズの解答・とさぶしを読んだのご意見やご感想をご記入の上、下記の宛先まで締切日(2020年9月20日)必着でお送りください。〒781-0081 高知市北川添10-15 株式会社ほっとこうち



## 愛する地元を盛り上げたい! みんなの想いをひとつに

# 訪集落 ねてを

山間の素晴らしい景色を一度味わってほしい!



水野 智尋さん

高知県佐川町出身で、昨年まで兵庫県の大学に在籍。今年春に地元へ帰省し就職。アクティブな性格で、休みの日は色んな場所に出かけるという。「絶景を眺めに、またここに来たい!」。

四万十川二次支流・精原川の二次支流となる中津川流域にある集落。39世帯66名ほどの小さな地域だが、それがゆえに「皆が顔見知りで、集落全体が家族のようなもの」。他の集落と同じく過疎高齢化に悩まされており、「愛する地元をなんとか盛り上げたい」と地元民が一致団結。その拠点として中津川集落活動センター「こだま」が誕生した。地域の女性を中心にあって地元食料を使った料理や地元のパン、コーヒーなどを提供する「モーニングカフェ」を月に2回開催しながら、地元の自然を活かしたキャンプや各種体験、さらに「どろんこ運動会」や「もみじまつりバイキング」などのイベントを定期的に主催。地域での交流の場を設けている。「センターから望む景色が最高なのはもちろん、地元の方々のおもてなしの心に感動! 本当に地元が好きなんだと感じました」と水野さん。ほっこりとさせてくれる小さな集落に、ぜひ注目。

中津川集落活動センター「こだま」

高岡郡四万十町中津川243-1 ☎/090-9700-7856

廃校になった小学校を利用して、2016年2月に発足した集落活動センター。福祉コミュニティの充実した力を入れながら、交流事業や地元文化の伝承、里山保全や産業振興など様々な事柄を目的に運営されている。月に2回行われる「モーニングカフェ」は第1・3日曜日の8時半から開催予定で、料理は500円で提供。第1日曜は「ふれあいサロン」も併催している。また、7月中旬には「どろんこ運動会」も開催(※今年中止)。

こだま推進委員会 女性部代表  
田辺客子さん



モーニングカフェで提供されるデザートも手作り、地元で焙煎されたコーヒーと共に味わえる。山間の景色や地元の人々との交流も楽しみながら味わって。夏場は各種キャンプの体験なども受け付け。



# とさぶし

A BRAND NEW CHAPTER KOSHOJI  
TOSABUSHI

web  
リニューアル!  
見てちゃ!

<https://tosabushi.com>



facebookもやっています!

<https://www.facebook.com/tosabushi>

発行

高知県文化生活スポーツ部文化振興課

〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号(本庁舎5階)

Tel 088-823-9793 Fax 088-823-9296

E-mail 140201@ken.pref.kochi.lg.jp

発行日:2020年7月31日(季刊)

企画 とさぶし編集委員会

制作 ほっとこうち

## バックナンバーの入手方法

お近くに配布先がない場合は、送料分の切手を送っていただくと、受け取り次第、発送をいたします。

### 【送料】

1冊 140円

2冊 180円

3冊 215円

4・5冊 310円

6冊以上の場合は、一度ご連絡ください。

お問い合わせ・送付先は、

高知県文化生活スポーツ部文化振興課(上記)まで。



このパンフレットは宝くじの収益金の一部で  
作成しています。

LINE@でも情報配信中!



# とさぶし

と友達になろう!

